



オリパラ通信 Vol.21

## 大会の象徴 大会エンブレム(紋章)

トップアスリートが目指す世界最高峰の大会「オリンピック・パラリンピック大会」。実は、エンブレムデザインナーにとっても夢の舞台なのです。

今回は、大会の象徴として使用される、大会エンブレムを紹介します。

## 強烈なインパクト! 東京1964大会 エンブレム

東京1964大会のエンブレムは、NTTやTDKなどのロゴを多数制作し、後に文化功労者にも選ばれた、グラフィックデザイナーの亀倉雄策氏がデザインしました。

大きな日の丸、その下に金色の五輪マークと、TKYO1964の文字。

シンプルながらもデザイン性に優れていることから、歴代のエンブレムの中でも高い評価を得ています。

そして2015、再び東京開催が決定しました。

## 東京2020大会の エンブレムは日本の 伝統「市松模様」

東京2020大会のエンブレムは、応募総数1万4千599作品の中から、美術家の野老朝雄氏による、日本の伝統を取り入れたデザインが選ばれました。

エンブレムのタイトルは

「組市松紋」。江戸時代に流行した市松模様(チェック柄)を伝承したものです。

市松模様は、柄が途切れなく続くことから、永遠、繁栄という意味があります。縁起の良い柄として古くから親しまれてきた市松模様を、日本の伝統色である藍色で描き、日本らしさも表現しています。

## エンブレムに 込められた思い

このエンブレムは、サイズの異なる四角形45ピースで描かれており、国や文化、思想の違いを示しています。更に、この45ピースを円になるように繋ぎ合わせることで「多様性と調和」を表しています。

「違いはあっても互いに認め合い、つながる世界を目指す」という、美術家・野老氏の思いが込められているのです。



市松模様